

Title	大東京史蹟案内(一高史談會編, 育英書院發行)
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.11, No.4 (1933. 2) ,p.182(688)- 183(689)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330200-0182

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

著者は、本論文の内容を、「ロシヤラツプ族研究」と「ロシヤ・ラツプ族に關する文獻」の二部に分けて居る。

本論文は、著者もその序文に於て斷つて居るやうに、ロシヤ・アルハンダ尔斯ク、ムルマジスク、カレリスク地方の郷土的研究報告書乃至は、これに並行してロシヤ地理學協會のカレロリムルマン部の委員會の報告書等によつて、今日までに同地方及び同族の部分的研究は非常に進められて居るので、今こゝでは、同族そのものより、その研究を歴史的に纏め、又自分の能ふ範囲で同族に關する重要な文獻を蒐集することをもつて主眼としたのであると述べて居る。

事實、著者の序言の如く、本文は同族の研究を時代別に記し、且評して居る。次にその内の主なるところを抄譯してみると

「ラツプ族について研究されたものは、十七世紀からであつて、それ以前に同族についてまとまつた研究は出來て居らん。同族について、最も古い参考文書としては、十一、二世紀に於ける「ヤロスラフ・法令」十三世紀には、「一二五二年にロシヤより諾威に大使を派して居るが、それに附屬した公文書にラツプ族のことが記してあり、その後はノヴゴロド市役所の公文書に断片的に同族についての記事を見ることが出来る。

十六世紀の初期、ロシヤ・ラツプランドがモスコー政府の治下にをがれるやうになつてからは、屢々同族に關した調査書などを見るやうになり、殊にイワン三世大侯の如きは法令を出して同族の調査を命じて居り、その調査の中には、同族を「森林

のラツプ族」「粗野なるラツプ族」等の項目を立て、同族を分類して居る。

十六世紀の中葉には二ヶ所に寺院が建てられて居り、これよりは資料が非常に豊富になつて居る譯である。

以上の如くに、同族の文獻の現はれなかつた時代を説明し、次に十七世紀より現今までの文獻時代を説明して居る。

その同族を研究した文獻の最初のものは、一六七三年に公にされたシェッフェルの (Schäffer, I.) 一著であるとなし、それより年代順に、あらゆる方面的同族研究學徒を記し、且その研究の結果を批判して居り、一九三〇年にチャルノルスキイ (Charnolusky, V.V.) がロシヤ地理學協會から刊行して居る「ラツプ族に關した材料」(Materialy po obyti Loparej) 及びホッパン (Goppin, S.P.) がロシヤ學士院より刊行した「ペチングスク・ラツプ族について」(O Pečengskikh Lopurej) の二論文を掲げ、この二著が最近に於ける、同族の歴史、民族等の研究書として、最も權威あり、且最も新らしきものであると述べて、本文を終り、その次に同族に關する文獻（各國のもの約二百十一種）を刊行された年代順に排列して居る。本文によつて同族研究及び今まであまり顧みられなかつたロシヤ語の文獻を、各國のそれと並行して參照しうることは、同方面の研究に携るものにとりて益すること多からんことを思つてこゝに粗雑ながら紹介した譯である。（小島武男）

一高史談會が、その創立二十周年を記念し、既に出版した大正十二年刊「史蹟を探る人々」（東京郊外編）、昭和二年刊「東京近郊史蹟案内」の中新東京に繰入れられる部分を改訂し、舊市内篇を新たに編纂増補して一冊となしたものが本書である。一高生

氏等の如き専門家あり、全く此種の出版物として坊間に類を見ざる立派な出版物である。先づ總説として東京附近の史的變遷を略敍し、次に市内篇郊外篇の二部に分けて、史蹟を説明し、最後に江戸地誌解説略、國寶目錄、年號表を添えてゐる。散歩者の好伴侶であり、殊に郷土教育の提唱せられる今日、時宜を得たる好著述として江湖に推薦する。日本人が國內にベデカーの如き案内書版により歩一步理想に近づいてゆくことが出来ると思へば愉快である。吾人は、本書の如き史蹟案内に加えて更に將來地理學的、自然科學的、美術史的、民俗學的の案内が添附され、趣味の案内書が都人に供給せられんことを衷心より期待する。たとへば現代の若人にとって、全く變形した三田池貝鐵工場の前で往古南洲と海舟の會見した薩摩藏屋敷趾を想起するよりも、寧ろ多摩川用水、品川用水、三田用水などの開發が如何にして大東京西部の發展を促したかと云ふ様な人文地理的考察をなす方が遙かに興味が多いと信ずる。史談會の諸君が今後史蹟の見方について新生面を開拓し、綜合文化史の大東京の觀察指針を提供せられんことを切望する。（松本信廣）

書評

寄贈交換雑誌圖書目録

飯田忠純著 「法律史」と「法制史」との限界

野村岩夫著 仙臺藩農業史研究

宮武外骨編 壬午雞林事變

橋本増吉著 日本上古史研究（一）

日英交通史料（九）

宗教と藝術 「佛教藝術の研究」

朝鮮佛教 「春畝山博文寺落慶入佛記念號」

馬琴會發行 曲亭馬琴年譜

國學院大學上代文化研究會
三松莊一編 福岡縣鄉土史年表

國學院大學附屬圖書館編 增加圖書目錄

松本信廣著 古代文化論

續正倉院史論 寧樂十五

備後史談 八ノ十、十一、十二

風俗研究 一四九、一五〇、一五一

飛彈史壇 十一ノ六、七

伊豫史談 七一

神社協會雜誌 三一ノ十、十一、十二

人類學雜誌 四七ノ九、十

上毛及上毛人 一八八

かたな 三七七、三七八、三七九

金雞學院叢書 五九、六〇、六一

高原書店

無一文館

花房太郎

大岡山書店

龍谷大學文藝部

朝鮮佛教社

森潤三郎

九州民族學會

國學院大學

共立社書店

寧樂發行所

備後鄉土史會

風俗研究會

飛彈史談會

伊豫史談會

神社協會

東京人類學會

上毛鄉土史研究會

中央刀劍會